

(2) 「文教住宅都市・西宮」について

西宮市は、昭和 35 年に生じた石油コンビナート誘致問題をめぐり、工場誘致派と環境保護派に市を二分する論争を経て、昭和 38 年に「文教住宅都市」を宣言しました。宣言から 50 年を迎える今年、市民のみなさまにご意見をお聞きし、西宮の将来像の検討に役立てていきたいと考えています。

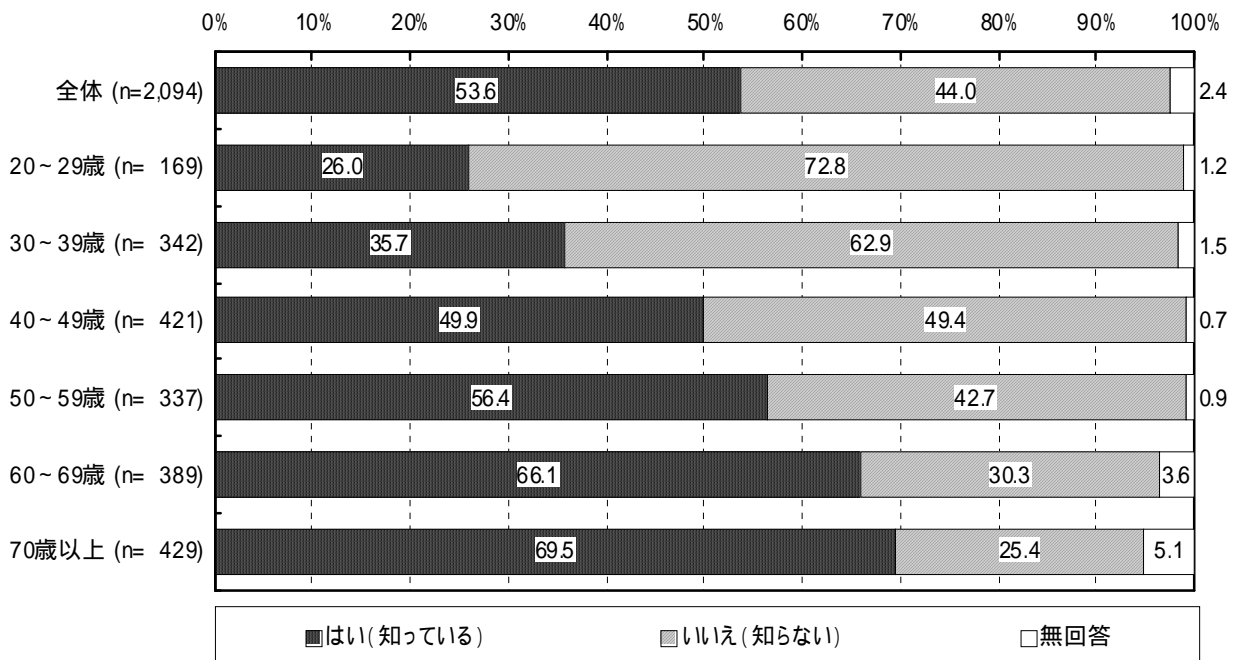
「文教住宅都市宣言」の周知度

問14 西宮市が「文教住宅都市宣言」をしていることを知っていますか。(1つ選んで)

5割の人が「文教住宅都市宣言」を知っている。

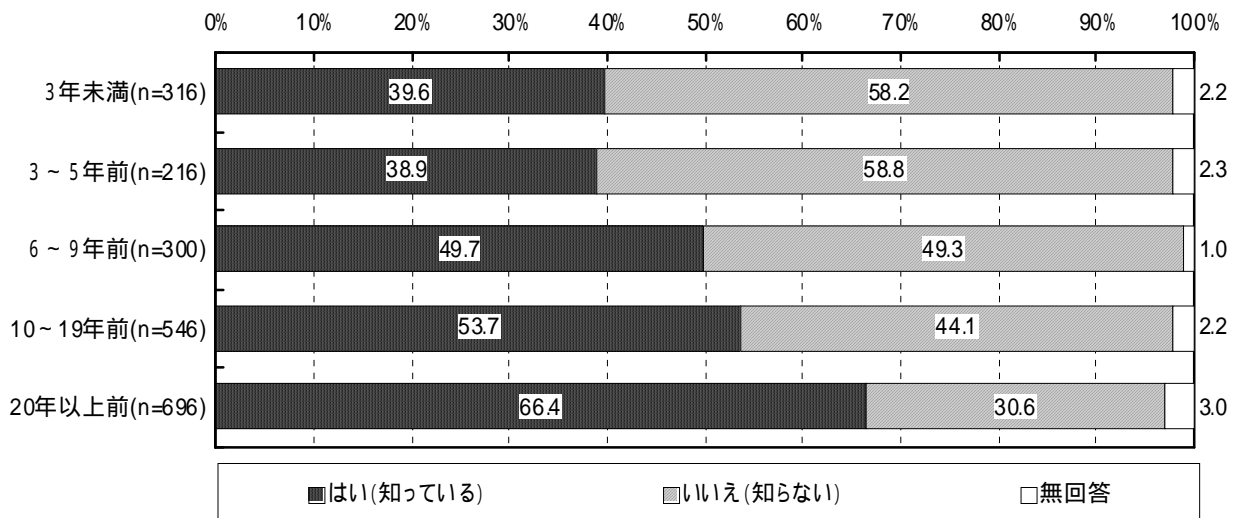
- ・「文教住宅都市宣言」の周知状況は、「はい(知っている)」が53.6%を占めている。
- ・年代別にみると、年齢が高くなるにつれ周知度はあがり、70歳以上では「はい(知っている)」が69.5%となっている。

「文教住宅都市宣言」の周知度



- ・現住所居住時期別にみると、居住期間が6年以上の人では周知度が上がり、「20年以上前」から居住している人では66.4%と高くなっている。

「文教住宅都市宣言」の周知度 《現住所居住時期別》



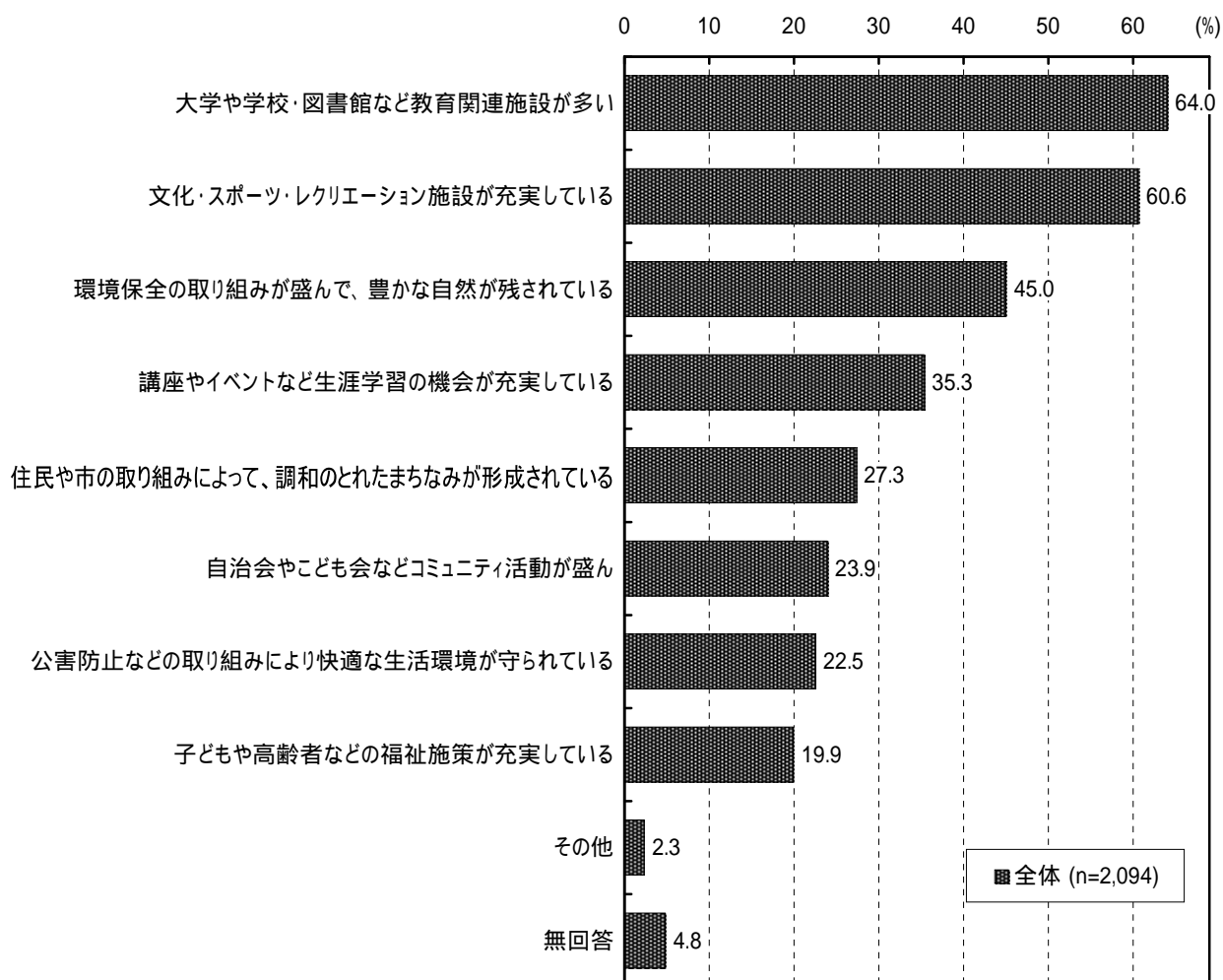
「文教住宅都市」のイメージ

問15 「文教住宅都市」と聞いて、あなたはどのような都市をイメージしますか。(あてはまるものをすべて選んで)

「文教住宅都市」に対するイメージは教育関連や文化・スポーツ等施設の充実性、環境保全や豊かな自然。

- ・「文教住宅都市」のイメージについて、「大学や学校・図書館など教育関連施設が多い」が64.0%と最も多く、次いで「文化・スポーツ・レクリエーション施設が充実している」が60.6%、「環境保全の取り組みが盛んで、豊かな自然が残されている」が45.0%、「講座やイベントなど生涯学習の機会が充実している」が35.3%などと続いている。

「文教住宅都市」のイメージ



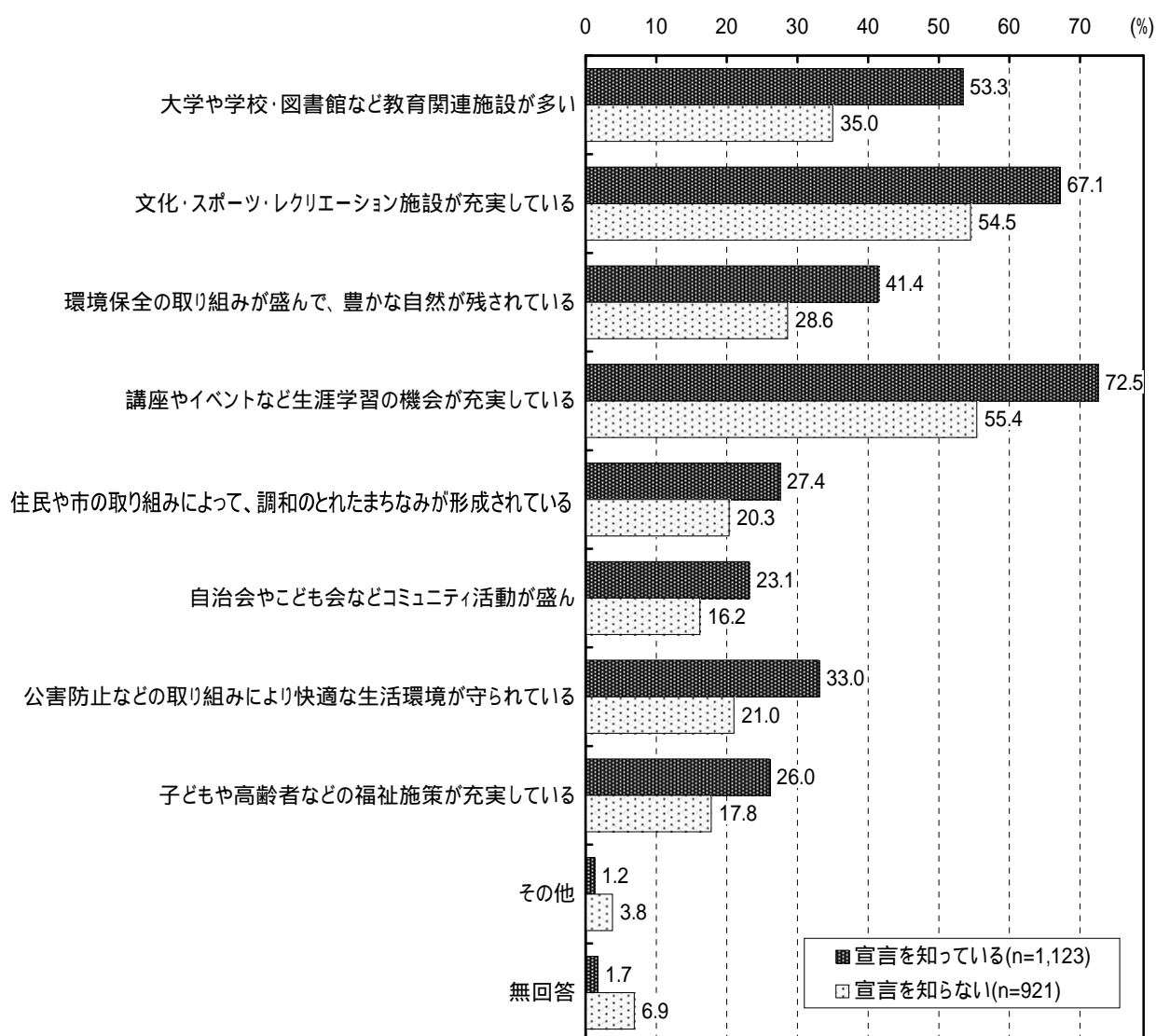
- ・年代別にみると、65～69歳で「環境保全の取り組みが盛んで、豊かな自然が残されている」や「講座やイベントなど生涯学習の機会が充実している」、「公害防止などの取り組みにより快適な生活環境が守られている」などが全体と比べて10ポイント以上高く、また、70歳以上でも「環境保全の取り組みが盛んで、豊かな自然が残されている」が高くなっている。

	環境保全の取り組みが盛んで、豊かな自然が残されている	文化・スポーツ・レクリエーション施設が充実している	講座やイベントなど生涯学習の機会が充実している	大学や学校・図書館など教育関連施設が多い	自治会や子ども会などコミュニティ活動が盛ん	子どもや高齢者などの福祉施策が充実している	住民や市の取り組みによって調和のとれたまちなみが形成されている	公害防止などの取り組みにより快適な生活環境が守られている	その他
全体 (n=2,094)	45.0%	60.6%	35.3%	64.0%	23.9%	19.9%	27.3%	22.5%	2.3%
20～29歳 (n=169)	23.7%	53.3%	23.7%	61.5%	21.9%	16.0%	22.5%	11.8%	7.1%
30～39歳 (n=342)	34.2%	64.3%	33.0%	67.3%	20.5%	17.5%	25.7%	17.5%	2.3%
40～49歳 (n=421)	39.2%	64.1%	28.5%	70.8%	18.5%	14.5%	23.8%	16.6%	2.4%
50～59歳 (n=337)	46.6%	64.4%	36.5%	68.0%	24.0%	16.6%	26.7%	21.4%	1.8%
60～64歳 (n=193)	50.8%	58.5%	42.5%	63.7%	26.9%	23.8%	34.2%	21.2%	2.1%
65～69歳 (n=196)	62.8%	63.8%	49.0%	63.8%	27.6%	25.0%	32.7%	34.7%	1.5%
70歳以上 (n=429)	56.4%	53.8%	38.2%	53.1%	29.6%	27.5%	28.9%	32.2%	1.4%

斜体の数値は、全体比10ポイント以上の結果を表している。(表示の関係上「無回答」を割愛)

・「文教住宅都市宣言」の周知度別にみると、「文教住宅都市宣言」を知っているという人では全体的に知らない人よりも多くなる結果となっており、「環境保全の取り組みが盛んで、豊かな自然が残されている」や「大学や学校・図書館など教育関連施設が多い」、「講座やイベントなど生涯学習の機会が充実している」、「文化・スポーツ・レクリエーション施設が充実している」、「公害防止などの取り組みにより快適な生活環境が守られている」などで、周知度によるイメージの開きがうかがえる。

「文教住宅都市」のイメージ 《「文教住宅都市宣言」の周知度別》



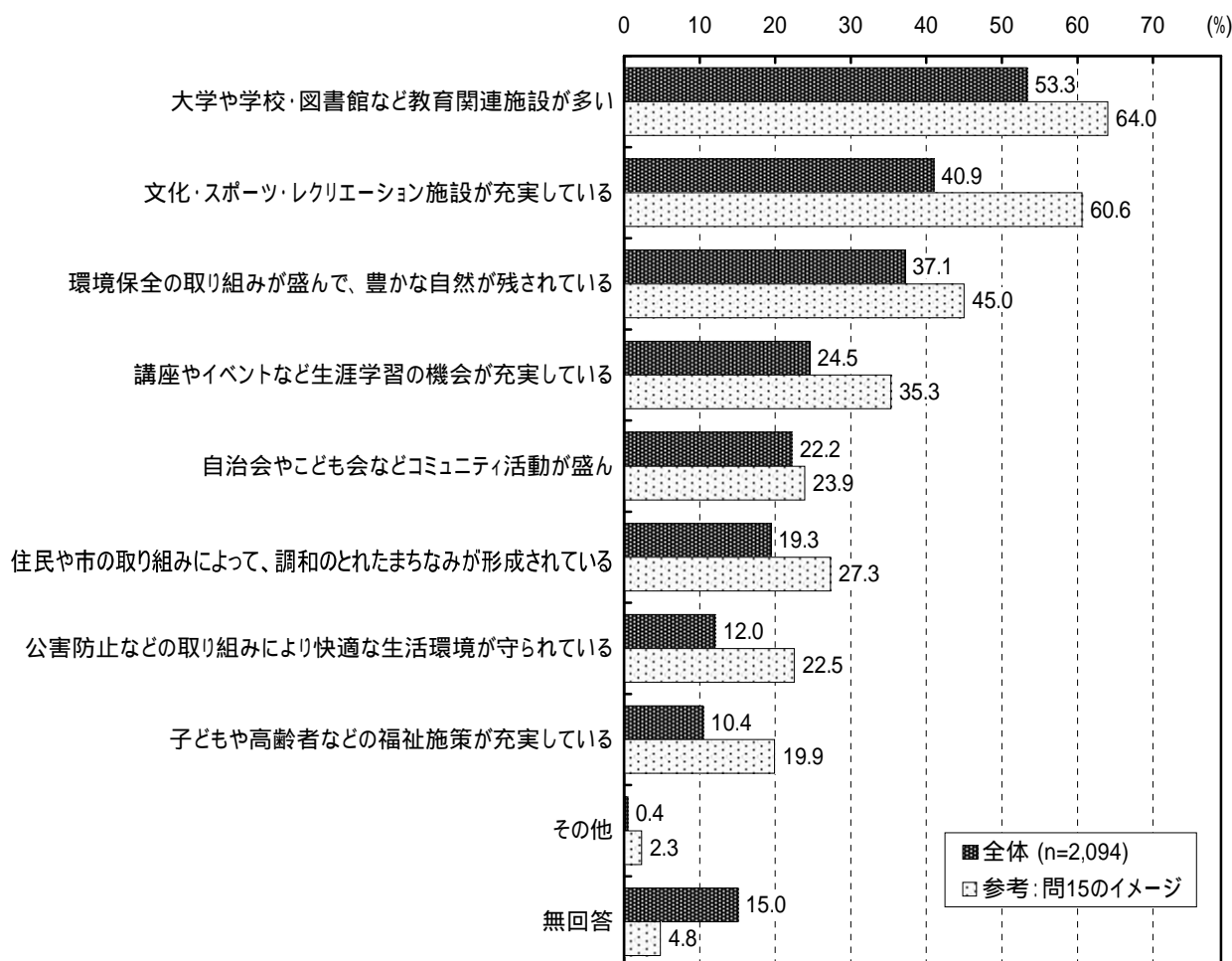
「文教住宅都市」として備わっていると思うもの

問16 現在、西宮市にお住まいになっていて、「文教住宅都市」として、西宮市に特に備わっていると思われるものについて、上記（問15の選択肢）から選び、番号を記入してください。（最もあてはまるものを3つまで）

西宮市に備わっているのは教育関連施設や文化・スポーツ等施設。

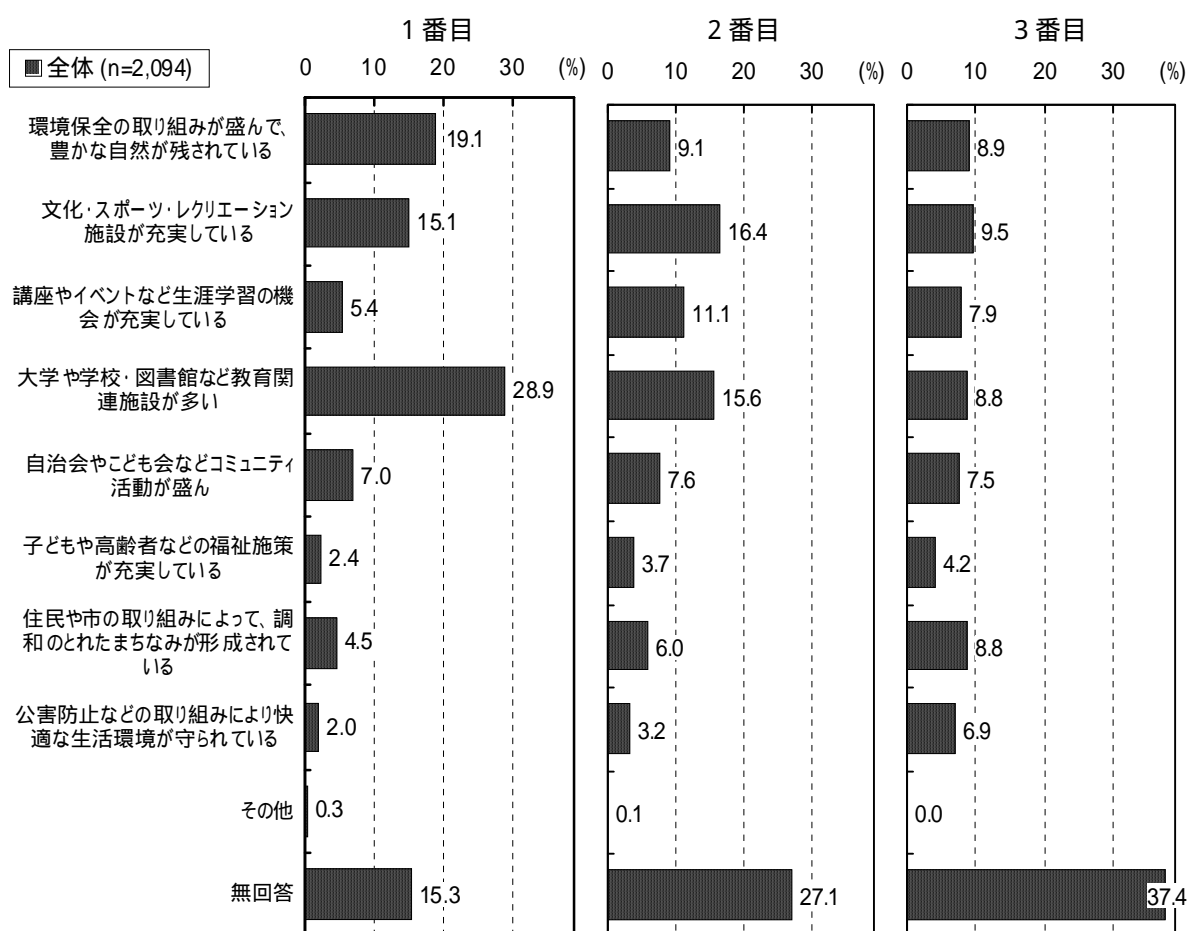
- ・西宮市が「文教住宅都市」として特に備わっているものとしては、「大学や学校・図書館など教育関連施設が多い」が53.3%と最も多く、次いで「文化・スポーツ・レクリエーション施設が充実している」が40.9%、「環境保全の取り組みが盛んで、豊かな自然が残されている」が37.1%などと続いている。
- ・問15の「文教住宅都市」のイメージと比較すると、全体的にイメージを下まわる結果となっており、「文化・スポーツ・レクリエーション施設が充実している」がイメージでは60.6%を占めるのに対し、備わっていると思う人は40.9%と19.7ポイント低くなる結果となっている。

「文教住宅都市」として備わっていると思うもの（集約）



- ・集約前の回答を1～3番目までそれぞれみると、「大学や学校・図書館など教育関連施設が多い」を1番目にあげる人が多くなっているほか、1番目としてはあがらないものの、2番目以降では「講座やイベントなど生涯学習の機会が充実している」、「住民や市の取り組みによって、調和のとれたまちなみが形成されている」や「公害防止などの取り組みにより快適な生活環境が守られている」などが多くなる結果となっている。
- ・また、「自治会や子ども会などコミュニティ活動が盛ん」をあげる人は、1～3番目それぞれでほぼ均等にしている傾向がうかがえる。

問16 文教住宅都市として備わっていると思うもの：1～3番



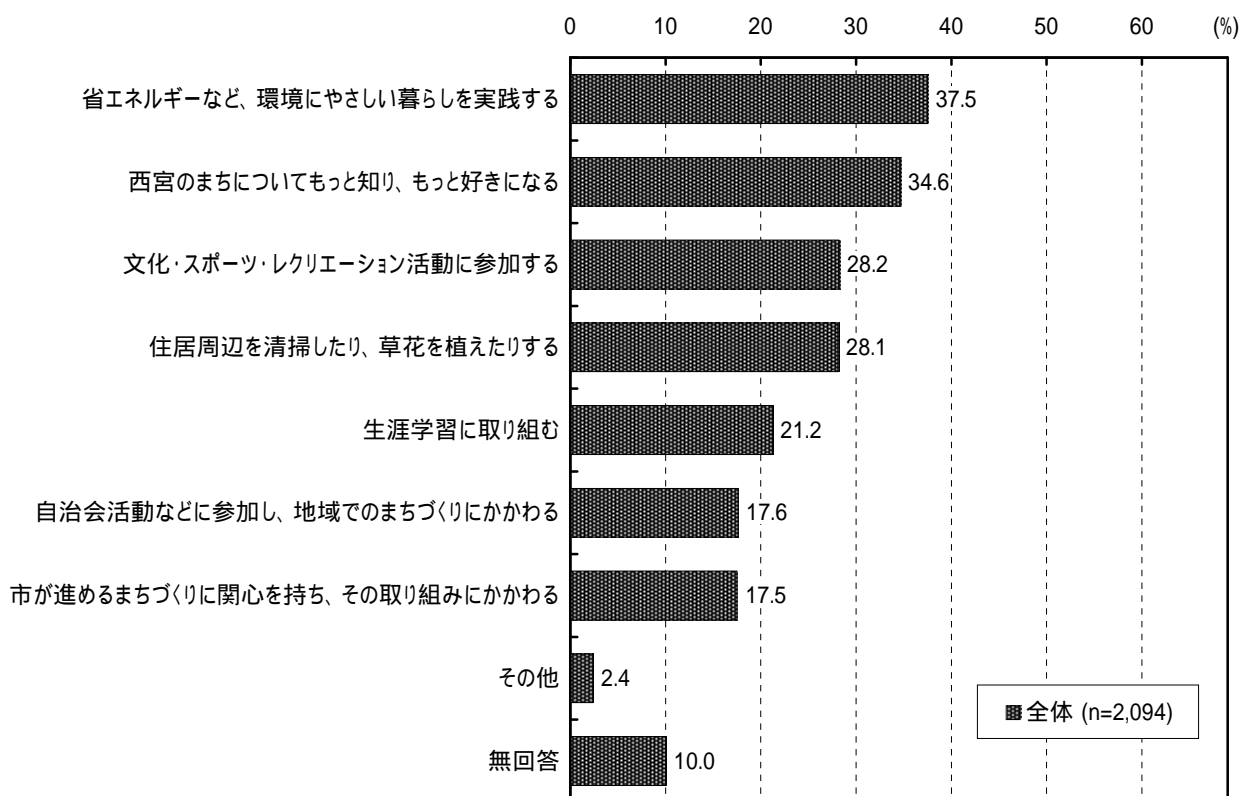
「文教住宅都市」に住む市民として送りたい暮らし

問17 「文教住宅都市」に住む市民として、あなたは、こういった点を意識した暮らしを送りたいと考えますか。(あてはまるものをすべて選んで)

市民は環境にやさしい暮らしや自分のまちについての知識を深めることを希望。

- ・「文教住宅都市」に住む市民として送りたい暮らしとしては、「省エネルギーなど、環境にやさしい暮らしを実践する」が37.5%と最も多く、次いで「西宮のまちについてもっと知り、もっと好きになる」が34.6%、「文化・スポーツ・レクリエーション活動に参加する」が28.2%、「住居周辺を清掃したり、草花を植えたりする」が28.1%、「生涯学習に取り組む」が21.2%などと続いている。

「文教住宅都市」に住む市民として送りたい暮らし



- ・年代別にみると、年齢が高くなるにつれ、「住居周辺を清掃し、草花を植える」、「環境にやさしい暮らしを实践する」、「生涯学習に取り組む」などの回答が多くなる傾向がうかがえる。また、65～69歳で「自治会など地域でのまちづくり」がやや多くなる結果となっている。

	まちについてもっと知り 好きになる	住居周辺を清掃し、 草花を植える	環境にやさしい暮らしを 実践する	文化・スポーツ活動等に 参加する	生涯学習に取り組む	自治会など地域での まちづくり	市が進めるまちづくりに 関心を持つ	その他	無回答
全体 (n=2,094)	34.6%	28.1%	37.5%	28.2%	21.2%	17.6%	17.5%	2.4%	10.0%
20～29歳 (n=169)	32.5%	16.0%	27.8%	30.8%	15.4%	11.2%	16.0%	1.8%	10.7%
30～39歳 (n=342)	42.4%	23.4%	38.3%	32.7%	19.3%	14.6%	21.3%	4.4%	4.4%
40～49歳 (n=421)	35.4%	25.4%	35.6%	29.7%	19.2%	17.1%	19.7%	2.6%	5.9%
50～59歳 (n=337)	31.5%	25.2%	38.6%	29.7%	23.7%	15.7%	14.8%	1.8%	8.6%
60～64歳 (n=193)	31.1%	33.2%	42.5%	31.6%	28.0%	18.7%	17.1%	1.0%	8.8%
65～69歳 (n=196)	33.2%	39.8%	46.9%	29.6%	27.0%	24.0%	18.9%	3.6%	11.2%
70歳以上 (n=429)	33.1%	34.0%	35.2%	18.9%	19.3%	21.0%	14.5%	1.4%	19.1%

斜体の数値は、全体比10ポイント以上の結果を表している。

施策に向けての一言 <「文教住宅都市・西宮」について>

西宮市は大阪と神戸の中間に位置する良好な文教住宅都市として発展してきているが、発展の方向性をめぐってはかつて市を二分する激しい論争と対立があった。昭和 35 年に石油コンビナート誘致をめぐって工場誘致派と環境保護派が対立し、昭和 38 年の市長選挙を経て、同年に「文教住宅都市」が宣言されたのである。平成 25 年はそれから半世紀になるが、いまの西宮市民は「文教住宅都市・西宮」についてどう考えているのであろうか。

問 14 は西宮市が「文教住宅都市宣言」をしていることの周知度を尋ねている。「知っている」とする回答が 53.6%であり、半数を超えている。市民の間で「文教住宅都市宣言」を知っている割合が 50%を上回っているのは高い方といえよう。年代別にみると、年代が上がるにつれて周知度が上昇しており、70 歳以上では 70%近くなっている。また、居住年数別でも居住年数が長くなるほど周知度は上昇している。市民の間で忘却されることなく、認知され続けていることがわかる。その一方で、若年層や居住年数の短い層では周知度が低いことから、周知努力は必要であろう。

問 15 は「文教住宅都市」のイメージを尋ねている。「大学や学校・図書館など教育関連施設が多い」64.0%や「文化・スポーツ・レクリエーション施設が充実している」60.6%が高く、教育や文化のイメージが高いようである。その一方で、「子どもや高齢者などの福祉施策が充実している」19.9%、「公害防止などの取り組みにより快適な生活環境が守られている」22.5%、「自治会や子ども会などコミュニティ活動が盛ん」23.9%であり、福祉、生活環境、コミュニティ活動のイメージは高くない。西宮市が「文教住宅都市宣言」をするにいたったのは、工場誘致か環境保護かをめぐる対立であった経緯を考えると、やや異なるイメージという印象も残る。年代別の特徴として、とくに 20-29 歳で「環境保全の取り組みが盛んで、豊かな自然が残されている」23.7%、「公害防止などの取り組みにより快適な生活環境が守られている」11.8%と全体平均よりもかなり低くなっている。

では、「文教住宅都市宣言」をしている西宮市ではこれらは備わっていると思われるのであろうか。問 16 は西宮市で特に備わっているものを尋ねている。「大学や学校・図書館など教育関連施設が多い」53.3%、「文化・スポーツ・レクリエーション施設が充実している」40.9%が高い方であり、教育や文化施設の充実が認識されているようである。他方、「子どもや高齢者などの福祉施策が充実している」は 10.4%、「公害防止などの取り組みにより快適な生活環境が守られている」は 12.0%と低く、実際にも備わっているとはみられていない。イメージと実際に備わっているかどうかのギャップが目立つのは、「文化・スポーツ・レクリエーション施設が充実している」の回答である。イメージと実際に備わっているとする回答の差は 20%近くもあり、大きなギャップが生じている。

問 17 は「文教住宅都市」に住む市民として送りたい暮らしを尋ねている。「省エネルギーなど、環境にやさしい暮らしを实践する」37.5%、「西宮のまちについてもっと知り、もっと好きになる」34.6%が高い方であり、「市が進めるまちづくりに関心を持ち、その取り組みにかかわる」は 17.5%、「自治会活動などに参加し、地域でのまちづくりにかかわる」は 17.6%と低い。まちづくり参加活動意欲は低いようである。年代別にみると、「自治会活動などに参加し、地域でのまちづくりにかかわる」は 20-29 歳で 11.2%、「市が進めるまちづくりに関心を持ち、その取り組みにかかわる」がやはり 20-29 歳で 16.0%とかなり低い。とくに 20-29 歳でまちづくり参加活動意欲の低いのが目立っており、気になるところである。

(関西学院大学 森脇俊雅)